Ota City Labor Union Paper

職友おおた

発行人：執行委員長　小林 克敏　／　発行元：太田市職労教育宣伝部

太田市職労

57
2023
29th.Sep

9.15、16 自治労群馬県本部　第９５回定期大会

▲青木新中央執行委員長による団結ガンバロー

▲質疑を行う今泉書記長

▲機関紙コンクール最優秀賞受賞

2023 年 9 月 15 日（金）～16 日（土）、「ホテル天坊」（渋川市）にて「自治労群馬 県本部第 95 回定期大会」が開催された。代議員として県内単組から委任状含め 140 人が参加。太田市職労からは県本部執行部として山本特執、代議員として小林執行委員長、今泉書記長ほか 7 名が出席した。

定期大会は、2023 年度たたかいの総括のほか、2024 年度運動方針、当面の闘争方針など、計 6 本の議案が提出され、県本部方針を補強する単組発言も経て、全ての議案が承認された。2023 たたかいの総括では、今年の 4 月行われた「第 20 回統一地方選挙」の振り返りが行われ、自治労群馬県本部組織内候補として擁立した 4 名の当選を勝ち取ることができたことを報告した。また、議案第 6 号では 2025 年の第 27 回参議院議員選挙における自治労組織内候補予定者として、現職の参議院議員であり 2 期目に臨む岸真紀子氏（立憲民主党）の推薦決定が承認された。

表彰の部では、太田市職労が発行する機関紙『職友おおた』が機関紙コンクール「ビラ・速報・闘争期の部」で最優秀賞を受賞したことを受け、表彰が行われた。

【バレーボール】王者帰還！！太田市職労、関東大会制覇　本冬全国大会へ

9 月 7 日（木）～ 8 日（金）、千葉県千葉市「千葉ポートアリーナ」にて自治体職員等スポーツ大会（女子バレーボール）が開催された。太田市職労（太田市役所バレーボール部）は柏市職員組合と中央区職労、鹿沼市職労を破り優勝し、12 月に和歌山県で行われる全国大会への出場を決めた。（以下、試合レポートは自治労千葉県本部教宣部『自治労千葉スポーツニュース第 3 号』『同第 4 号』より引用、一部改変）

大会初日、主導権を早々に握り初戦突破　多彩な攻撃見せる

第一セット序盤、やや動きの硬い柏（千葉県）に対し、太田は多彩な攻撃で攻める。粘り強い守りを見せる柏だが、太田の攻撃が上回り、圧倒する展開に。第二セット、緊張のほぐれた柏がいい動きを見せるも太田は流れを渡さず、力強いサーブや強烈なスパイクを決め、両セットとも３点しか失わずに勝利した。（太２－０柏：21－３、21－３）

準決・決勝、王者の貫禄見せつけＶ　全国への切符を手にする

大会２日目､準決勝の中央区職労（東京都）戦。第一セット、序盤から鋭い攻めの応酬で激しい攻防が続くも太田の得点からスタート。その後も太田が得点を重ねるが、中央区も敗けじと２点を返す。激しい攻防を制して引き離しにかかり、中央区も堅牢なブロックで防ぐが点差が広がり、一方的な展開に。後半は中央区も連続得点で追い上げるが点差は縮まらず、一セット目は太田が制す。第二セット目、太田８番大津（産業政策課）の鋭い攻めによる得点でスタート。その後も激しいスパイクで攻め立て一方的な展開に。中央区もなんとか１点を返すが続かず、以降も点差は広がる。中央区も粘りを見せじわじわと得点を増やすが、太田の攻めはとどまることを知らず。さらに点差を広げて大幅なリードで強さを見せつけて、決勝戦への切符を手にした。（太２－０中：21－８、21－11）

決勝は鹿沼市職労（栃木県）戦。激しいラリーの応酬の末、太田が１点を先取。鹿沼はチームワークを発揮してすぐさま連続得点で追い抜き、序盤から巧妙なラリーが続く激しいシーソーゲームに。その後も両者一歩も譲らぬ接戦が続き、太田８番大津と４番三瓶（地域総務課）のスパイクが華麗に決まる。その後も鋭い攻めでじりじりと点差を広げる太田。鹿沼は攻めきれないまま一セット目は太田が先取した。二セット目も序盤からラリーが続く激しい攻防の末、鹿沼のスパイクで先取。その後も攻め手を緩めず連続得点で流れを掴む鹿沼に太田が食らいつき、同点に詰め寄ってからの鮮やかな逆転劇。その後も激しいラリーが続くが、巧みな技でネット際の攻防を制した太田がリードを広げ、最後まで鹿沼を寄せ付けず王者の貫禄を見せつけた。（太２－０鹿：21－10、21－13）

太田市職労は 12 月に和歌山県で開催される全国大会に出場予定。全国制覇に向け、活躍が期待される。

＜全国優勝大会―開催日程＞

日　時　12 月２日（土）～４日（月）

会　場　和歌山ビッグホエール・ビッグウェーブ
（和歌山市手平 2-1-1）

青年部 夏季交流会について

8 月 19 日（土）、太田市職労青年部主催による夏季交流会が実施され、青年部員ほか 45 名が参加し、交流を深めた。青年部夏季交流会を巡っては毎年夏頃に開催されていたが近年はコロナ禍を理由に開催が見送られ、今回が４年ぶりの開催となった。青年部長を兼任する太田書記次長は「久々に交流会を開催できて嬉しく思います。近年はコロナ禍もあって青年部員同士の交流が少なくなってしまったこともあり、多くの青年部員から開催を希望する声が上がっていた中での実施でした。今回の交流会が今後の青年部活動につながればと考えています」と振り返った。